

表千家北山会館 特別展 千家十職

# 黒田正玄家の竹工芸 茶の湯工芸の伝統と創造——

2008年10月18日(土)——11月30日(日)

休館日=月曜日(但し祝日は開館し、翌日休館)

開館時間=9時30分~16時30分(入館は16時まで)

入館料=一般1000円、大学生・高校生800円(中学生以下無料)、団体(20名以上)800円/呈茶含む

主催=表千家北山会館、京都新聞社

後援=京都府、京都市、京都府教育委員会、京都市教育委員会、NHK京都放送局



千家十職のなかで、竹工芸の茶道具を担当する家が黒田正玄家です。

初代黒田正玄は、天正6年(1578)、越前黒田郡黒田庄(現在の福井県三方五湖の近く)に生まれました。その一円は丹羽越前守の領地であり、正玄は、慶長5年(1600)、関ヶ原の合戦で西軍の一武士として戦い、敗残し、浪人となりました。近江国大津に移り住んで竹細工を生業とするようになり、これが竹細工師・柄杓師の門出であります。出身地の黒田郡は竹林が多く、身近に材料が入りやすかったことから、次第に柄杓作りを生業としていったと思われます。

大津から京都、洛北の瓜生山に居を移した初代は、当時豊臣秀吉から「天下第一」の御朱印を賜った柄杓の名工一阿弥と出会います。初代は一阿弥から手ほどきを受け、柄杓制作の見習いをするようになりました。その後、当時伏見奉行の小堀遠州のもとで茶の湯を学びました。毎日、遠州の伏見屋敷に通ったことから「日参の正玄」の異名をとるほどであったようです。

表千家北山会館 特別展 千家十職

# 黒田正玄家の竹工芸

遠州より柄杓作りの名手としての手腕を認められ、江戸幕府三代将軍徳川家光の柄杓師として推挙され、以来八代まで將軍家に仕え、徳川將軍家御用柄杓師として竹細工を生業とし、明治維新を迎えました。

千家との関係が出来るのは、三代正玄時代、表千家六代覚々斎の御用をする頃からです。柄杓のほかにも、竹の花入・香合・中次・茶杓なども制作するようになりました。以来、歴代は表千家家元の御用をつとめています。その後、十三代(当代)へと家業を継承し、現在に至っています。

この度の展覧では黒田家歴代の作品を中心に、竹を素材とした多種多様な伝統の技を紹介いたします。

## 茶の湯文化にふれる市民講座

### テーマ「茶の湯の竹工芸」

今回の市民講座では、黒田家の歴代の作品を展示する特別展にあわせて、4人の専門の方々に講師としてお招きします。いろいろな角度から竹工芸の世界を探求いたします。

10月25日(土)

黒田正玄氏(千家十職 竹細工・柄杓師)  
「竹を生業として四百年」

11月1日(土)

渡邊政俊氏(竹文化振興協会専門員・農学博士)  
「竹と日本文化」

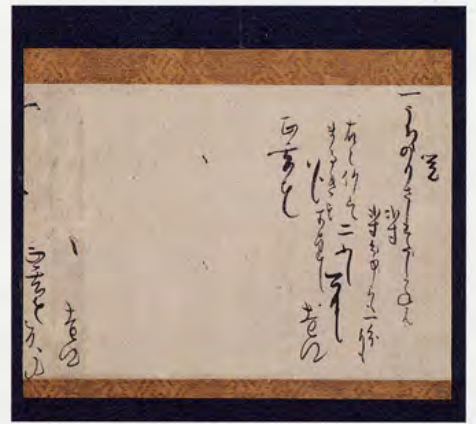
11月8日(土)

貫名義隆氏(表千家)  
「茶の湯のなかの竹」

11月15日(土)

戸田 博氏(道具商) 聞き手: 生形貴重氏(千里金蘭大学教授)  
「竹に込められた茶人の意識」

時間: 14時~16時(開館は9時30分)  
参加費: 2,000円(呈茶、特別展見学を含む) 定員: 1回200名  
※電話で事前に申し込みが必要です(先着順)。  
詳細は表千家北山会館までお尋ね下さい。



小堀遠州筆 初代正玄宛文



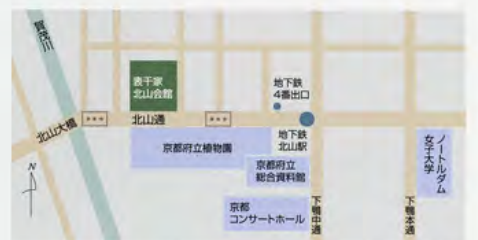
竹籜香合 徳川治宝卿染筆「喜」の字 七代正玄作



一阿弥形柄杓



竹一重切花入 銘「帰雁」  
初代正玄作



#### 当館への交通について

- JR「京都駅」より
- 地下鉄烏丸線国際会館行「北山駅」下車、4番出口をでて西へ徒歩約5分
- タクシー約30分
- 阪急電車「烏丸駅」より
- 地下鉄烏丸線乗り換え「北山駅」下車
- 京阪電車より
- 「三条駅」より地下鉄乗り換え「烏丸御池駅」乗り継ぎ「北山駅」下車
- 「出町柳駅」よりタクシー約15分

## 表千家北山会館

〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町61  
電話 075-724-8000 Fax 075-724-8007  
<http://www.kitayamakaikan.jp>